

峯岸美紀・北見由季・秋山正基・飯島正文・稗田宗太郎・渡辺 誠・齋藤文護. 下腿の紫斑, 水疱, 浮腫で発症した Crow-Fukase 症候群の 1 例. 第 108 回日本皮膚科学会総会 (福岡, 2009, 4)

大歳晋平・藤島沙和・内田隆夫・秋山正基・飯島正文・佐藤兼重. Squamous metaplasia のため生検時 SCC との鑑別診断に苦渋し, 術後半年で肺・骨転移をきたした乳房外 Paget 病の 1 例. 第 25 回日本皮膚悪性腫瘍学会 (岡山, 2009, 5)

猿田祐輔・杉山美紀子・秋山正基・飯島正文. 鼻翼部に生じた neurilemmoma の 1 例. 日本皮膚科学会第 824 回東京地方会 (東京, 2009, 6)

奥村恵子・渡辺秀晃・藤島沙和・飯島正文・藤巻良昌. 外反母趾に併発した化膿性関節炎の 1 例. 日本皮膚科学会第 824 回東京地方会 (東京, 2009, 6)

濱田和俊・久我真智子・杉江瑠美・中田土起丈・秋山正基・飯島正文. 環状扁平苔癬の 1 例. 日本皮膚科学会第 824 回東京地方会 (東京, 2009, 6)

北川真希・安木良博・渡辺秀晃・秋山正基・飯島正文. 自然退縮を来したメルケル細胞癌の 1 例. 日本皮膚科学会第 825 回東京地方会 (東京, 2009, 7)

北見由季・香川三郎・飯島正文. 膿皮症として治療を受けていたリンパ管型スポロトリコーシスの 1 例. 日本皮膚科学会第 825 回東京地方会 (東京, 2009, 7)

杉山美紀子・杉江瑠美・秋山正基・飯島正文・五十嵐敦. 膀胱癌の皮膚転移の 1 例. 日本皮膚科学会第 826 回東京地方会 (東京, 2009, 9)

藤島沙和・渡辺秀晃・飯島正文・鈴木孝夫・光谷俊幸. L-17F は炎症性サイトカイン IL-6 や Th1 型ケモカイン IP-10 を介し乾癬の病態形成に関与している. 第 24 回日本乾癬学会 (東京, 2009, 9)

保坂浩臣・大歳晋平・中田土起丈・末木博彦・飯島正文. 重症型薬疹に対する迅速組織診断の検討. 第 302 回昭和医学会例会 (東京, 2009, 9)

飯島正文. 重症薬疹の早期診断は皮膚科の得意技—我らの専門性を他科に向けて発信しよう! 第 73 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 (甲府, 2009, 9)

神山泰介・杉山美紀子・長村蔵人・秋山正基・飯島正文. 臨床的に上皮系腫瘍を思わせた malignant fibrous histiocytoma の 1 例. 第 73 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 (甲府, 2009, 9)

濱田和俊・大歳晋平・渡辺秀晃・飯島正文. ラモトリギン内服が原因と思われた acute generalized

exanthematous pustulosis の 1 例.
第 39 回日本皮膚アレルギー・接
触皮膚炎学会総会学術大会(京都,
2009, 11)

飯田剛士・今泉牧子・宇野裕和・
中田土起丈・秋山正基・飯島正文.
Atypical fibroxanthoma と考えられ
た 1 例. 日本皮膚科学会第 828 回
東京地方会(東京, 2009, 12)

杉山美紀子・猿田祐輔・宇野裕
和・濱田和俊・秋山正基・飯島正
文. 白人に生じた基底細胞癌
(BCC) の 2 例. 日本皮膚科学会
第 829 回東京地方会(東京, 2010,
1)

森戸啓統、小川浩平、福本隆也、
小林信彦、浅田秀夫: メキシチー
ル による Drug-induced
hypersensitivity syndrome(DIHS)の
一例. 第 39 回日本皮膚アレルギー
・接触皮膚炎学会(京都)
2008.11.5-8

相原雄幸: 小児の重症薬物アレル
ギーの診断と治療 第 21 回日本
アレルギー学会春季臨床大会シ
ンポジウム 6 薬物アレルギーの
診断と治療の進歩 H21.6.

大山宣孝、蒲原 毅、横田俊平、
相原雄幸: 血漿交換療法が奏効し
た中毒性表皮壊死症(TEN)の 1 幼
児例 第 21 回日本アレルギー学
会春季臨床大会 H21.6

松倉節子、相原道子、池澤優子、
相原雄幸ほか: 重症薬疹(SJS, TEN)
におけるサイトカインの経時的

変化—血漿交換およびステロイ
ドパルス療法の効果の検討 第
59 回日本アレルギー学会 H21.10

フローサイトメトリーを用いた
DLST の検討 花房崇明、小豆澤
宏明、片山一郎 第 412 会日本皮
膚科学会大阪地方会

フローサイトメトリーを用いた
DLST の検討 花房崇明、小豆澤
宏明、片山一郎 第 39 回日本皮
膚アレルギー学会・接触皮膚炎学
会総会 京都

玉井克人、教育講演: 表皮水疱症
の病態・診断・治療、第 108 回日
本皮膚科学会総会・学術大会、
2009 年 4 月 24 日、博多市

玉井克人、教育講演: 表皮水疱症
の患者さんから学んだこと、第 25
回日本臨床皮膚科医会総会、2009
年 5 月 8 日、高知市

玉井克人、教育講演: 動き出した
遺伝性皮膚難病の根治的治療法
開発、神奈川県皮膚科医会第 130
回例会、2009 年 6 月 25 日、横浜
市

玉井克人、シンポジウム: 骨髄由
来幹細胞による皮膚再生メカニ
ズム、第 73 回日本皮膚科学会東
部支部学術大会、2009 年 9 月 26
日、山梨市

玉井克人、シンポジウム: 骨髄由
来多能性幹細胞動員因子を利用
した非瘢痕性機能的皮膚組織再
生誘導医療の開発、第 61 回日本

皮膚科学会西部支部学術大会、別府市

何川宇啓、平原和久、塩原哲夫：MTX 治療中の RA 患者に発症した lymphomatoid granulomatosis (LYG) の 1 例. 第 823 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区). 平成 21 年 1 月 17 日, 東京.

佐藤洋平、稲岡峰幸、平原和久、塩原哲夫：間擦疹型薬疹の臨床を呈した非色素沈着性多発性固定薬疹の 1 例. 第 821 回日本皮膚科学会東京地方会(城西地区). 平成 20 年 11 月 15 日, 東京.

稲岡峰幸、堀江千穂、井上桐子、平原和久、塩原哲夫：帯状疱疹後に発症し、肉芽腫反応を伴った薬剤性過敏症症候群の一例. 第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 平成 20 年 10 月 12 日, 名古屋.

堀江千穂、稲岡峰幸、井上桐子、平原和久、塩原哲夫：帯状疱疹後に発症し、著明な好酸球浸潤を伴った薬剤性過敏症症候群の一例. 第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 平成 20 年 10 月 12 日, 名古屋.

塩原哲夫：感染症と薬剤アレルギー. 第 20 回日本アレルギー学会春季臨床大会. 平成 20 年 6 月 12 日, 東京.

池澤善郎：薬剤アレルギー検査の評価. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学術大会(講演), 東京, 2008,2.

山根裕美子、相原道子、立脇聡子、松倉節子、蒲原 毅、池澤善郎：重症薬疹の治療と予後に関する検討-当科 2 施設における SJS および TEN46 例の検討-. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 京都, 2008,4.

繁平有希、相原道子、前田修子、池澤善郎：ステロイドパルス療法が奏効したイソニアジド(INH)による薬剤性過敏症症候群(DIHS)の 1 例. 第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 大阪, 2008,10.

國見裕子、佐々木哲雄、三津山信治、小河原寛子、矢田佳子、小林照子、相原道子、池澤善郎：イソソルビドゼリーによる薬疹の 1 例. 第 58 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京, 2008,11.

前田修子、藤田浩之、池澤優子、竹下芳裕、相原道子、池澤善郎：膿疱性乾癬の急性増悪との鑑別が困難であったアモキシシリンによる急性汎発性発疹性膿疱症の 1 例. 第 23 回日本乾癬学会学術大会, 旭川, 2008,9.

藤村奈緒、長島真由美、松山阿美子、岡部 彩、中村和子、廣門未知子、松倉節子、蒲原 毅、池澤善郎：クリンダマイシン(ダラシン^R)による紅皮症型薬疹の 1 例. 第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 大阪, 2008,10.

飯島正文. 重症薬疹, 特に SJS/TEN, DIHS の特徴的な皮疹とその初期疹. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 4 月 18-20 日, 京都, 2008

渡辺秀晃, 飯島正文. 重症型薬疹に対する厚生労働省を含めた各組織の対応と患者会・マスメディア. 第 107 回日本皮膚科学会総会, 4 月 18-20 日, 京都, 2008

渡辺秀晃, 飯島正文. 薬剤性過敏症症候群 一新しくわかってきたこと. 第 58 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 11 月 27-29 日, 東京, 2008

経過中に急性腎不全, ショックをきたしアロプリノールによる drug-induced hypersensitivity syndrome と考えられた 1 例. 第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会. 11 月 7-9 日, 大阪, 2008

上田真由美、外園千恵、稲富勉、羽室淳爾、木下茂: Stevens-Johnson 症候群における IL13/IL4R シグナル遺伝子多型の関与、第 32 回角膜カンファレンス、千葉、2008、2、28.

足立紘子、稲富勉、外園千恵、上田真由美、木下茂: 重症 MRSA 感染と両眼性角膜穿孔をきたした急性期 Stevens-Johnson 症候群の一例、第 32 回角膜カンファレンス、千葉、2008、2、29.

上田真由美、外園千恵、稲富勉、

木下 茂: Stevens-Johnson 症候群における FasL 型の関与、第 11 回京都免疫ワークショップ、京都、2008. 3.22

上田真由美、外園千恵、稲富勉、木下茂. Stevens-Johnson 症候群の遺伝子発現解析ならびに遺伝子多型解析. 第 62 回日本臨床眼科学会、眼科 DNA チップ研究会、東京、2008. 10. 23.

外園千恵. 教育講演 12 重症薬疹と新規薬疹「重症薬疹の眼合併症」. 第 107 回日本皮膚科学会総会、京都、2008. 4. 19.

上田真由美、外園千恵、稲富勉、木下茂. 候補遺伝子アプローチによる Stevens-Johnson 症候群の遺伝子多型解析. 第 62 回日本臨床眼科学会、東京、2008. 10. 25

浅田秀夫: HHV-6 再活性化と皮膚アレルギー. 第 20 回日本アレルギー学会春季臨床大会 (シンポジウム) 東京、2008.6.12-14

浅田秀夫: ウイルス感染と薬疹. 第 38 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (シンポジウム) 大阪、2008.11.9

小豆澤 宏明 薬疹 2008 中毒性表皮壊死症 (TEN) の発症機序 日本皮膚アレルギー学会 大阪

Hiroaki Azukizawa, Nobuo Kanazawa, Manfred B. Lutz Langerin+ dendritic cells induce de novo regulatory T cells by

presenting epidermal self-antigen
日本免疫学会 京都

玉井克人：シンポジウム：骨髄由来ケラチノサイトによる皮膚再生、第7回日本再生医療学会総会、2008年3月13日、名古屋

玉井克人：教育講演：創傷治療のニューウェーブ、第107回日本皮膚科学会総会 2008年4月20日、京都

玉井克人：基調講演：遺伝性皮膚疾患の根治的治療法開発、第23回角化症研究会、2008年8月2日、東京

玉井克人、梅垣知子、馬淵恵理子、片山一朗、金田安史、棘融解性水疱を生じた非ヘルピックス接合部型表皮水疱症の一例、第30回水疱症研究会、2008.10.26、東京

玉井克人、山崎尊彦、知野剛直、金田安史 骨髄幹細胞動員因子を利用した新しい皮膚再生誘導医療の開発 第15回分子皮膚科学フォーラム 2008.11.14-15、京都

水川良子、北垣英樹¹、塩原哲夫¹(赤穂研究所大塚製薬株式会社): Neuromedin U は自然免疫とアレルギー性炎症の調節因子である。日本研究皮膚科学会第32回年次学術大会・総会、横浜、平成19年4月18日。

高橋 良¹、塩原哲夫¹(杏林大・医・FCM): 皮膚へホーミングする

制御性 T 細胞(Treg)の増加はヘルペス属ウイルスの再活性化をもたらす。日本研究皮膚科学会第32回年次学術大会・総会、横浜、平成19年4月18日。

塩原哲夫、狩野葉子: DLST の結果をどう解釈するか。第106回日本皮膚科学会総会、横浜、平成19年4月22日。

五味方樹、白石由佳、満山陽子、堀田隆之、平原和久、水川良子、塩原哲夫: マイコプラズマ肺炎の経過中に発症した toxic epidermal necrolysis(TEN)の1例。日本皮膚科学会第812回東京地方会(城西地区)、東京、平成19年6月16日。

井上桐子、青田典子、平原和久、狩野葉子、塩原哲夫: 初診時 Stevens-Johnson syndrome(SJS)が疑われたヘルペス関連多形紅斑(HAEM)。日本皮膚科学会第814回東京地方会(城西地区)、東京、平成19年9月8日。

平原和久、佐藤洋平、何川宇啓、早川和人、塩原哲夫: ジクロフェナクナトリウム(ボルタレン[®])により粘膜症状のみ出現した薬疹の1例。第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会、京都、平成19年10月20日。

石田 正、平原和久、早川和人、塩原哲夫、橋本 隆¹(久留米大・医・皮膚科): 当初 Stevens-Johnson 症候群を疑った Linear IgA/IgG bullous dermatosis の1例。第58回

日本皮膚科学会中部支部学術大会, 京都, 平成 19 年 10 月 20 日.

青田典子, 浅野祐介, 塩原哲夫: インフルエンザワクチン接種後に生じた線状扁平苔癬の 1 例. 日本皮膚科学会第 817 回東京地方会(四地区分会), 東京, 平成 20 年 1 月 19 日.

塩原哲夫: シンポジウム 研究は臨床に役立っているか. 第 71 回日本皮膚科学会東京支部総会・学術大会, 東京, 平成 20 年 2 月 10 日.

Muramatsu M, Aihara M, Takahashi Y, Kaniwa N, Ikezawa Z: Genetic predisposition to severe cutaneous adverse drug response in Japan. 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会(シンポジウム), 横浜, 2007,11.

相原道子: 重症薬疹-Stevens-Johnson 症候群および中毒性表皮壊死症(TEN)の病態と治療, シンポジウム: 薬物アレルギーの発症メカニズム, 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜, 2007.11.2

相原道子: TEN/SJS の治療指針, ワークショップ 第 37 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 名古屋国際会議場, 2007.12.16

松倉節子, 井上雄介, 國見裕子, 松木美和, 蒲原毅, 伊藤秀一, 稲葉彩, 相原雄幸, 相原道子, 池澤善郎: マイコプラズマ肺炎お

よびフェノバール投与後に発症した小児 Stevens-Johnson 症候群の 1 例. 第 106 回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2007,4.

繁平有希, 前田修子, 小岩克至, 井上雄介, 相原道子, 池澤善郎: フェニトインが原因として疑われた薬剤性過敏症症候群(DIHS)の 1 例. 日本皮膚科学会第 814 回東京地方会, 川崎, 2007,9.

古井智子, 池澤善郎, 相原道子, 猪又直子, 廣門未知子, 池澤善郎, 小川英幸: 血漿交換療法にて改善した toxic epidermal necrolysis(TEN)の 1 例. 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜, 2007,11.

前田修子, 小岩克至, 相原道子, 山本栄治, 池澤善郎: 頻回の再燃を繰り返した drug-induced hypersensitivity syndrome(DIHS)の 1 例. 第 37 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 名古屋, 2007,12.

松木美和, 松倉節子, 松山阿美子, 高野藍子, 立脇聡子, 蒲原毅, 相原道子, 池澤善郎, 山本裕子: 誘発に常用量 2 日を要した S-カルボキシメチル-L-システイン(ムコダイン R)による固定薬疹の 1 例. 第 37 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 名古屋, 2007,12.

松山阿美子, 高野藍子, 立脇聡子, 松倉節子, 蒲原毅, 池澤善郎: 固定薬疹の診断に open application

test が有効であった 1 例. 第 37 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 名古屋, 2007,12.

相原雄幸 第 58 回日本アレルギー学術集会シンポジウム 9 食物アレルギーの最近の動向 食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FEIA_n,FDEIA) の疫学と診断 2007.11.1 パシフィコ横浜

玉井克人: 教育講演: 水疱症の最先端; 栄養障害型表皮水疱症、第 106 回日本皮膚科学会総会、2007 年 4 月 22 日、横浜

玉井克人: シンポジウム: 骨髄由来末梢血間葉系幹細胞による組織再生誘導、第 25 回日本ヒト細胞学会、2007 年 8 月 3 日、東京

岸本 治郎, 白方裕司, 藤原重良, 相馬勤, 橋本公二: ヒト毛乳頭細胞の効率的な培養方法の確立. 第 32 回日本研究皮膚科学会年会, 2007 年 4 月 18 日, 横浜

2. 国外)

口頭発表: 78 件

原著論文による発表: 198 件

それ以外 (レビュー等) の発表: 10 件

そのうち主なもの

論文発表

Hashimoto K, Tohyama M, and Shiohara T.: Drug reactions with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS/DIHS). Life-Threatening Dermatoses and Emergencies in

Dermatology: 97-102, 2009.

Shiohara T: Fixed drug eruption: pathogenesis and diagnostic tests. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 9:316-21, 2009

Aota N, Shiohara T: Viral connection between drug rashes and autoimmune diseases: how autoimmune responses are generated after resolution of drug rashes. *Autoimmun Rev* 8:488-94, 2009.

Shiohara T, Mizukawa Y, Takahashi R: Pathomechanisms of lichen planus autoimmunity elicited by cross-reactive T cells. *Curr Dir Autoimmun* 10: 206-226, 2008

Shiohara T, Kano Y: Lichen planus and lichenoid dermatoses. In: *Dermatology* 2nd edn. Bologna JL, Jorizzo JL, Rapini RP (eds.). London, Mosby, 2008. p.159-180.

Shiohara T, Mizukawa Y, Takahashi R, Kano Y: Pathomechanisms of lichen planus autoimmunity elicited by cross-reactive T cells. In *Dermatologic Immunity*. Nickoloff BJ, Nestle FO (eds). Basel, Karger, 2008. vol 10, p. 206-226.

Shiohara T, Kano Y: A complex interaction between drug allergy and viral infection. *Clin Rev Allergy Immunol* 33(1-2): 124-133, 2007.

Shiohara T, Takahashi R, Kano Y: Drug-induced hypersensitivity

syndrome and viral reactivation. In: Drug Hypersensitivity. Pichler WJ (Ed.). Basel, Karger, 2007. p. 251-266.

Tamai K, Kaneda Y, Uitto J.: Molecular therapies for heritable blistering diseases. Trends Mol Med. 2009 15:285-92.

Azukizawa H, Itami S: Animal Models of Toxic Epidermal Necrolysis, Drug Hypersensitivity/editor, W.J.Pichler, Basel KARGER 2007 129-139. ISBN 978-3-8055-8269-8

Tohyama M, Shirakata Y, Sayama K, and Hashimoto K.: The influence of hepatic damage on serum soluble Fas ligand levels of patients with drug rashes. J Allergy Clin Immunol; 123: 971-972, 2009.

Tohyama M, Shirakata Y, Sayama K, Hashimoto K. A marked increase in serum soluble Fas ligand in drug-induced hypersensitivity syndrome. Br J Dermatol. 159:981-4, 2008

Tohyama M, Hashimoto K, Yasukawa M, Kimura H, Horikawa T, Nakajima K, Urano Y, Matsumoto K, Iijima M, Shear NH: Association of human herpesvirus 6 reactivation with the flaring and severity of drug-induced hypersensitivity syndrome. Br J Dermatol 157:934-40, 2007

Ehama R, Ishimatsu-Tsuji Y, Iriyama S, Ideta R, Soma T, Yano K, Kawasaki C, Suzuki S, Shirakata Y, Hashimoto K, Kishimoto J: Hair follicle regeneration using grafted rodent and human cells. J Invest Dermatol 127:2106-15, 2007.

Watanabe H, Daibata M, Tohyama M, Hashimoto k, Iijima M.: Chromosomal integration of human herpesvirus 6 DNA in anticonvulsant hypersensitivity syndrome. Br J Dermatol. In press

Shiohara T, Iijima M, Ikezawa Z, Hashimoto K: The diagnosis of a DRESS syndrome has been sufficiently established on the basis of typical clinical features and viral reactivations Br J Dermatol 156: 1083-1084 2007

Yamane Y, Aihara M, Ikezawa Z.: Analysis of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japan from 2000 to 2006. Allergol International. 2009 in press

Takahashi R, Kano Y, Yamazaki Y, Kimishima M, Mizukawa Y, Shiohara T: Defective regulatory T cells in patients with severe drug eruptions: timing of the dysfunction is associated with the pathological phenotype and outcome. J Immunol. 182:8071-9, 2009.

Kano Y, Hirahara K, Asano Y, Shiohara T: HLA-B allele

associations with certain drugs are not confirmed in Japanese patients with severe cutaneous drug reactions. *Acta Derm Venereol* 88: 616-618, 2008

Shiohara T, Iijima M, Ikezawa Z, Hashimoto K: The diagnosis of a DRESS syndrome has been sufficiently established on the basis of typical clinical features and viral reactivations. *Br J Dermatol* 156: 1083-1084, 2007.

Sotozono C, Ueta M, Kinoshita S. Systemic and local management at the onset of Stevens-Johnson syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis with Ocular Complications. *Am J Ophthalmol*, 2009 in press.

Sotozono C, Ueta M, Kinoshita S. The Severity and Management of ocular complications of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis. *Arch Dermatol*, in press.

Sotozono C, Ueta M, Koizumi N, Inatomi T, Shirakata Y, Ikezawa Z, Hashimoto K, Kinoshita S. Diagnosis and treatment of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis with ocular complications. *Ophthalmology* 116(4) : 685-90, 2009.

Chino T, Tamai K, Yamazaki T, Otsuru S, Kikuchi Y, Nimura K,

Endo M, Nagai M, Uitto J, Kitajima Y, Kaneda Y. Bone marrow cell transfer into fetal circulation can ameliorate genetic skin diseases by providing fibroblasts to the skin and inducing immune tolerance. *Am J Pathol*. 2008 173:803-14.

学会発表

Sayama K, Shirakata Y, Ishimatsu-Tsuji Y, Kajiya K, Hirakawa S, Sugawara K, Chambon P, Akira S, Paus R, Kishimoto J, and Hashimoto K.: Inflammatory mediator TAK1 regulates hair follicle cycling. The 69th Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, Montreal, Canada, 5/6-9, 2009.

Shirakata Y, Yang L, Sayama K, and Hashimoto K.: Simple method of constructing living skin equivalent using human amnion as dermal matrix. The 39th Annual Meeting of European Society for Dermatological Research, Budapest, Hungary, 9/10-12, 2009.

Shirakata Y and Hashimoto K.: Development of a new skin equivalent using de-epithelialized amnion membrane. The 4th Joint Meeting of Japanese Dermatological Association and Australasian College of Dermatologists, Sapporo, 7/10-12, 2009.

Hirakawa S, and Hashimoto K.:

Lymph node lymphangiogenesis-a new concept in cancer metastasis. Symposium in 7th World Congress on Melanoma and 5th Congress of the European Association of Dermato-Oncology (EADO), Vienna, Austria, 5/12-16, 2009.

Shiohara T: Symposium Viral reactivation in drug-induced hypersensitivity syndrome. Japanese Dermatological Association and Australian College of Dermatologists, Sapporo, July 11th 2009.

Uno H, Osamura K, Ohtoshi S, Sugiyama M, Nakada T, Iijima M. Angiosarcoma (STewart-Treves syndrome). The 4th joint meeting of Japanese Dermatological Association and Australasian College of Dermatologists (Sapporo, 2009, 7)

Nakada T, Nonaka H, Iijima M. Metal patch test results from 1990 to 2009. The 17th International Contact Dermatitis Symposium and The 10th Asia-Pacific Environmental and Occupational Dermatology Symposium (Kyoto, 2009, 11)

Kojima H, Iijima M, Matsunaga K, Sasa H, Itagaki H, Okamoto Y, Nishiyama N, Onodera H, Mita I, Washida J, Masuyama K, Masuda M, Ohno Y. Utilization of an alternative to animal testing for safety evaluation of cosmetic ingredients using Quasi-drug. The 17th

International Contact Dermatitis Symposium and The 10th Asia-Pacific Environmental and Occupational Dermatology Symposium (Kyoto, 2009, 11)

Hirano A, Shiroyama Y, Morito H, Nakano S, Kitamura K, Fukumoto T, Asada H: A case of EBV-positive T cell lymphoma, developed from severe hypersensitivity to mosquito bites, cured by cord blood stem cell transplantation. The 4th Joint Meeting of JDA and ACD (Sapporo) 2009.07.10-12

What's new in immunology of metal allergy K Kabashima (17th International Contact Dermatitis Symposium 2009)

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Kinoshita S. Association of Toll-like receptor 3 gene polymorphisms with Stevens-Johnson syndrome. Keystone Symposia, Pattern Recognition Molecules and Immune Sensors of Pathogens. Banff, Alberta, Canada. 2009. 4. 2

Sotozono C, Nakamura T, Inatomi T, Hamuro J, Satake Y, Shimazaki J, Tsubota K, Hara Y, Ohashi Y, Kinoshita S. Multicenter Prospective Analysis of Cultured Corneal Epithelial Sheet Transplantation. 2009 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2009.5.4

Kinoshita S, Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Nakano M, Yagi T, Taniguchi T, Fuwa M, Tokuda Y, Tashiro K. EP3 Gene Polymorphisms in Japanese Patients With Stevens-Johnson Syndrome. 2009 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2009.5.6

Ueta M, Sotozono C C, Yokoi N, Inatomi T, Kinoshita S. EP3 Expression and Functions in Human Ocular Surface Epithelium. 2009 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2009.5.6

Inatomi T, Nakamura T, Koizumi N, Sotozono C, Kinoshita S. Phenotypic Analysis of Cultivated Oral Mucosal Epithelium Transplanted on a Human Cornea. 2009 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2009.5.7

Hashimoto K, Amagai M, Ikeda S: A double-blind clinical trial of IVIG for pemphigus in Japan. Post IID 2008 Satellite International Meeting on Autoimmune Bullous Diseases, May 17-19, Ootsu.

Tokumaru S, Shirakata Y, Hanakawa Y, Hirakawa S, Dai X, Yang L, Tohyama M, Sayama K, Hashimoto K: Nuclear translocation

of phosphorylated STAT3 is essential for lymphatic endothelial cell migration induced by VEGF-A. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Yang L, Shirakata Y, Hirakawa S, Dai X, Hanakawa Y, Tokumaru S, Tohyama M, Sayama K, Hashimoto K: Myofibroblasts differentiation is modulated by epithelial-mesenchymal in human living skin equivalents. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Hirakawa S, Watanabe S, Tanemura A, Detmar M, Hashimoto K: Activation of tumor and nodal lymphatic vessels promotes metastasis of extramammary Paget's disease undergoing epithelial-mesenchymal transition. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Tohyama M, Hanakawa Y, Dai X, Yang L, Hirakawa S, Tokumaru S, Shirakata Y, Sayama K, Hashimoto K: Augmentation of IL-22 receptor expression and IL-20 subfamily production plays a critical role in psoriasis. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Sayama K, Yamamoto M, Hanakawa Y, Shirakata Y, Akira S, Hashimoto K: Conditional ablation

of Ubc 13, a mediator of innate immunity, in keratinocytes induces abnormal differentiation, decreased proliferation, and apoptosis. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Shirakata Y, Yang L, Hanakawa Y, Tokumaru S, Hirakawa S, Tohyama M, Dai X, Sayama K, Yoshimura A, Hashimoto K: Keratinocyte-specific SOCS3 knockout mice show clinical phenotypes similar to human psoriasis. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Kishimoto J, Shirakata Y, Fuziwaru S, Soma T, Hashimoto K: Hair-inducing ability of cultured human dermal papilla cells. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Hirakawa S, Matsuo K, Hashimoto K: Lymph node lymphangiogenesis and metastasis: Role of tumor and lymphatic vessel activation in extramammary Paget's disease. 67th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, October 28-30, Nagoya, 2008. Selected for international session.

Hirakawa S, Nagamatsu S, Matsuo K, Tanemura A, Katayama I, Detmar M, Hashimoto K: Activation of tumor and nodal lymphatic vessels promotes metastasis of

extramammary Paget's disease undergoing epithelial- mesenchymal transition. UICC World Cancer Congress. Geneva, Switzerland August 27-31, 2008.

Hirakawa S, Nagamatsu S, Matsuo K, Tanemura A, Katayama I, Detmar M, Hashimoto K: Activation of tumor and nodal lymphatic vessels promotes metastasis of extramammary Paget's disease undergoing epithelial- mesenchymal transition. 5th International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Hirakawa S, Nagamatsu S, Tanemura A, Matsuo K, Katayama I, Detmar M, Hashimoto K: Activation of tumor and nodal lymphatic vessels promotes metastasis of extramammary Paget's disease undergoing epithelial- mesenchymal transition. Gordon Research Conference, Molecular Mechanisms in Lymphatic Function and Disease. Ventura, March 2-7, U. S. A., 2008.

Shirakata Y, Yang L, Hashimoto K: Successful treatment of giant congenital melanocytic nevus with new skin equivalent using amnion membrane. The 17th congress of the European Academy of Dermatology Venereology, Sep 17-20, Paris, 2008.

Hashimoto K, Tohyama M: Drug-induced hypersensitivity

syndrome. International symposium on solvent-induced, severe hypersensitivity reactions and human herpesvirus 6 reactivation, Nagoya, Nov. 29-30, 2008.

Yang L, Shirakata Y, Tokumaru S, Dai X, Hirakawa S, Tohyama M, Sayama K, Hashimoto K: Human amnion improves the development of basement membrane and epidermogenesis in a living skin equivalent. The 10th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, Hangzhou, China, Oct. 30-Nov. 2, 2008.

Dai X, Sayama K, Tohyama M, Shirakata Y, Yang L, Hashimoto K: The NF κ B, p38, and STAT1 pathways differentially regulate the dsRNA-mediated innate immune responses of epidermal keratinocytes. The 10th China-Japan Joint Meeting of Dermatology, Hangzhou, China, Oct. 30-Nov. 2, 2008.

Takahashi R1, Kimishima M, Yamazaki Y, Shiohara T (1Div. of Flow Cytometry). The timing of dysfunction of regulatory T cells determines the pattern and outcome of T cell-mediated severe drug eruptions. International Investigative Dermatology. May 17, 2008, Kyoto.

Aota N, Fukuhara M, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T. Autoimmune disease as sequelae of drug-induced hypersensitivity syndrome. 2nd International Conference on

Cutaneous Lupus Erythematosus. May 12, 2008, Kyoto.

Takahashi R, Shiohara T. Trafficking receptor expression on regulatory T cells in severe drug eruptions. 3rd International drug hypersensitivity meeting. April 12, 2008, Paris.

Mitsuyama Y, Kano Y, Hirahara K, Mizukawa Y, Shiohara T. Usefulness of monitoring of cytokine expression to evaluate therapeutic efficacy of plasmapheresis in patients with toxic epidermal necrolysis. 3rd International drug hypersensitivity meeting. April 12, 2008, Paris.

Kano Y, Hirahara K, Asano Y, Mitsuyama Y, Tahahashi R, Shiohara T. Association between drug and human herpesvirus in drug-induced hypersensitivity syndrome /drug rash with eosinophilia and systemic symptoms. 3rd International drug hypersensitivity meeting. April 12, 2008, Paris.

Shiohara T, Kano Y, Takahashi R. Update on regulators: regulatory T cells in DIHS/DRESS and SJS/TEN. 3rd International drug hypersensitivity meeting. April 12, 2008, Paris

Kano Y, Asano Y, Hirahara K, Shiohara T. Autoimmune disease occurring after drug-induced hypersensitivity syndrome. 6th

international conference on HHV-6 and 7. June 21, 2008, Baltimore.

Yamane Y, Aihara M, Tatewaki S, Matsukura S, Kambara T, Ikezawa Z : Analysis of deceased cases of severe adverse drug reactions: evaluation of the causes and treatment regimen for Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, 2008,4.

Shigehira Y, Aihara M, Yamane Y, Maeda N, Koiwa K, Watanabe C, Nakamura K, Ikezawa Z : Drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS/DRESS) with repeating recurrence. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, 2008,4.

Inoue Y, Onoda M, Koiwa K, Aihara M, Ikezawa Z : Erythema multiforme-type drug eruption due to isosorbide. 3rd International Drug Hypersensitivity Meeting, Paris, 2008,4.

Hideaki Watanabe, Mio Kawaguchi, Miyoko Ogura, Satoshi Matsukura, Hiroko Takeuchi, Motoi Ohba, Hirohiko Sueki, Fumio Kokubu, Nobuyuki Hizawa, Mitsuru Adachi, Shau-Ku Huang, Masafumi Iijima. Functional characterization of IL-17F as a selective neutrophil attractant in psoriasis. International Investigative Dermatology, May 14-17, Kyoto, 2008.

Hideaki Watanabe, Michihiro Kamijima, Tamie Nakajima, Mikiko Tohyama, Koji Hashimoto, Masafumi Iijima. Hypersensitivity syndrome caused by trichloroethylene. International Symposium on Solvent-induced Severe Hypersensitivity Reactions and Herpesvirus 6 Reactivation. Nov. 29-30, Nagoya, 2008.

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Hamuro J, Kinoshita S. Association of combined IL-13/IL-4R signaling pathway gene polymorphism with Stevens-Johnson syndrome. 2008 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2008.4.28.

Sotozono C, Araki Y, Inatomi T, Ueta M, Yokoi N, Kinoshita S. Successful Treatment of Stevens-Johnson Syndrome With High-Dose Corticosteroid Pulse Therapy at Disease Onset. 2008 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida, USA, 2008.4.28.

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Hamuro J, Kinoshita S. Association of Fas Ligand gene polymorphism with Stevens-Johnson syndrome. World Ophthalmology Congress

(WOC) 2008, Hong Kong, 2008.
7.29.

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Kinoshita S. Genetic Factors of Stevens-Johnson Syndrome in Japanese. 2008 American Academy of Ophthalmology, Atlanta, USA. 2008. 11. 10.

Sotozono C, Ueta M, Koizumi N, Inatomi T, Kinoshita S. Importance of Ocular findings for the early diagnosis of Stevens-Johnson syndrome. 2008 American Academy of Ophthalmology, Atlanta, USA. 2008. 11. 10.

Asada H : Pathogenesis of hypersensitivity to mosquito bites. International Investigative Dermatology 2008, Satellite Workshop, May 13, 2008, Kyoto

Kabashima K.: Langerhans cells and prostaglandins: contribution to the etiology and pathogenesis of atopic dermatitis and related disorders (symposium) 5th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis, Kyoto, April 2008

C Koga, K Kabashima, N Shiraishi, M Kobayashi, and Y Tokura: Possible pathogenic role of Th17 cells for atopic dermatitis. (IID 2008)

T Shimauchi, K Sugita, D Nishio, H Isoda, S Age, Y Yamada, R Hino, M Ogata, K Kabashima and Y Tokura:

Alterations of serum Th1 and Th2 chemokines by combination therapy of interferon-g and narrowband UVB in patients with mycosis fungoides. (IID 2008)

Hiroaki Azukizawa, Nobuo Kanazawa, Manfred B. Lutz Langerhans cells induce de novo regulatory T cells by presenting epidermal self-antigen. International Investigative Dermatology 2008, Kyoto

Hiroaki Azukizawa, Nobuo Kanazawa, Manfred B. Lutz Langerin⁺ dendritic cells induce de novo regulatory T cells by presenting epidermal self-antigen The 10th International Symposium on Dendritic Cells

Workshop for molecular and cellular therapy for EB, Bone marrow transplants: from mouse to human, bone marrow can be an essential source of mesenchymal and epithelial progenitor cells in EB skin, October 3rd, 2008, Madrid

Katsuto Tamai, Takehiko Yamazaki, Takenao Chino, Yasushi Kikuchi, Ichiro Katayama, Jouni Uitto, Yasufumi Kaneda. Bone marrow replenishes de novo keratinocytes in the regenerating hair follicles via circulating blood. Concurrent Minisymposium, Epidermal Structure and Function, International Investigative Dermatology Meeting 2008. May 14-17, Kyoto

Kishimoto J, Shirakata Y, Fuziwara S, Soma T, Hashimoto K: Hair-inducing ability of cultured human dermal papilla cells. International Investigative Dermatology 2008, May 14, Kyoto, Japan

Soma T, Fuziwara S, Ishimatsu-Tsuji Y, Yoshida Y, Kishimoto J: Generation and characterization of three-dimensional human hair follicle model using hanging drop culture system. International Investigative Dermatology 2008, May 14, Kyoto, Japan

Tamai k: Symposium: Development of NF-kB decoy ointment and clinical trial for atopic dermatitis, International Symposium of Atopic Dermatitis, May 12th, 2008, Kyot

Hirakawa S, Kodama S, Brown LF, Paavonen K, Hashimoto K, Alitalo K, Detmar M.: Targeted overexpression of VEGF-A or -C in the skin promotes lymph node lymphangiogenesis and metastasis 2nd International symposium on cancer metastasis and the lymphovascular system , Sanfrancisco, U.S.A., May 2-5, 2007.

Hirakawa S, Murakaami S, Hashimoto K.: Milroy's disease : a case report of the congenital lymphedema pedigree The 15th

Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology, Jeju, Japan, June 2-3, 2007.

Yang L, Shirakata Y, Dai X, Tokumaru S, Hirakawa S, Sayama K, Hashimoto K.: Development of a new skin equivalent model using de-epithelialized amnion membrane 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, May 9-12, 2007.

Sayama K, Kajiya K, Shirakata Y, Hanakawa Y, Hirakawa S, Dai X, Nagai H, Akira S, Kishimoto J, Hashimoto K.: Ablation of TAK1 in mouse keratinocytes disturbed hair follicle development 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, May 9-12, 2007.

Dai X, Shirakata Y, Sayama K, Tokumaru S, Hirakawa S, Tohyama M, Yang L, Hashimoto K.: PPAR-gamma is involved in 1.25-dihydroxyvitamin D3-induced beta-defensin-3 and cathelicidin expression in normal keratinocyte. 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, May 9-12,2007.

Shirakata Y, Yang L, Hashimoto K.: A new skin equivalent using de-epithelialized amnion membrane. 8th Congress of the German-Japanese Society of Dermatology, Yokohama, November 15-17, 2007

Ikezawa Z, Nakamura K, Mitani N, Watanabe Ch, Aihara M : Severe cutaneous drug hypersensitivity and herpes virus infection. International Symposium "Prevention of allergic contact dermatitis and allergy" in Seoul, 2007,6.

Ikezawa Z, Inomata N, Matsukura S : Late onset anaphylactic reactions to *Bacillus natto*-fermented soybeans, which are Japanese traditional foods "Natto". International Symposium "Prevention of allergic contact dermatitis and allergy" in Seoul, 2007,6.

Ikezawa Z, Watanabe C, Nakamura K, Yamane Y, Shigehira Y, Ikezawa Y, Aihara M : Drug-induced hypersensitivity syndrome and herpes virus infection. World Allergy Congress 2007, Bangkok, 2007,11.

Ikezawa Z, Yamaguchi J, Aihara M, Kambara T, Kobayashi Y : Quantitative analysis of nerve growth factor (NGF) in the horny layer of atopic dermatitis and effect of treatment on NGF. World Allergy Congress 2007, Bangkok, 2007,11.

Ikezawa Z, Yamane Y, Ikezawa Y, Shigehira Y, Watanabe C, Aihara M : Analysis of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japan. World Allergy Congress 2007, Bangkok, 2007,11.

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Hamuro J, Kinoshita S. Gene Expression Analysis of Monocytes Derived From the Patients of Stevens-johnson Syndrome With Ocular Complications. 2007 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida,USA, 2007.5.6.

Sotozono C, Ueta M, Koizumi N, Hibino S, Inatomi T, Kinoshita S. Acute Conjunctivitis as the Initial Symptom of Stevens-Johnson Syndrome With Ocular Complications and the Consequence of Topical Steroids. 2007 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida,USA, 2007.5.6.

Inatomi T, Nakamura T, Koizumi N, Sotozono C, Kinoshita S. Clinical Outcome of the Combination of Cultivated Autologous Oral Mucosal Epithelial Transplantation and Penetrating Keratoplasty 2007 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Fort Lauderdale, Florida,USA, 2007.5.6.

Ueta M, Sotozono C, Inatomi T, Kojima K, Tashiro K, Hamuro J, Kinoshita S. Toll like receptor 3 gene polymorphisms in Japanese patients with Stevens-Johnson syndrome. 13 th International Congress of Mucosal Immunology,

Tokyo, JAPAN, 2007. 7.10.

Tamai K.: Invited lecture: Bone marrow stem cell therapy for epidermolysis bullosa. IVth international symposium of EB, September 27-29th, 2007, Santiago, Chile.

Tamai K.: Invited lecture: Basal keratinocyte-targeting gene delivery system for in vivo EB gene therapy. IVth international symposium of EB, September 27-29th, 2007, Santiago, Chile.

Tamai K.: Bone marrow is an essential source of keratinocytes in the grafted skin. 10th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, July, 3rd, 2007, Seattle, WA, USA.

Fujiwara S, Ishimatsu-Tsuji Y, Soma T, Kishimoto J: In vitro generation of human hair follicle bud oriented cellular mass composed of dermal papilla cells and keratinocytes. 5th International Congress of Hair Research, June 13, Vancouver, Canada

G. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

1. 特許取得

間葉系幹細胞誘導剤及び組織再生促進剤並びに間葉系幹細胞の調整方法、出願番号：特願 2006-77243、

骨髄間葉系幹細胞誘導因子とその同定・分離法

出願番号：特願 2006-293582、

間葉系幹細胞誘導剤及び組織再生促進剤並びに間葉系幹細胞の調整方法

出願番号：PCT/JP2006/315406、

損傷組織の機能的再生促進医薬

出願番号：特願 2008-119324

PCT 出願：2009 年 4 月 30 日
(PCT/JP2009/058519)

末梢循環への骨髄由来多能性幹細胞動員薬

出願番号：特願 2008-119348

出願日：2008 年 4 月 30 日、PCT 出願：2009 年 4 月 30 日
(PCT/JP2009/058515)

生体内機能的細胞の高効率採取法

出願番号：特願 2008-119355

出願日：2008 年 4 月 30 日、PCT 出願：2009 年 4 月 30 日
(PCT/JP2009/058525)

発明名称：骨髄間葉系および/または多能性幹細胞の血中動員による組織再生促進剤

出願番号：特願：2009-247143

出願日：2009 年 10 月 28 日

発明名称：埋め込み式生体内物質採取デバイス

出願番号：特願 2009-248107

出願日：2009 年 10 月 28 日

発明名称：ヒト上皮細胞培養用培地

特許番号：特許第 4398290 号

登録日：2009 年 10 月 30 日

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし

資料 1